

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21 年 2 月 14 日

【評価実施概要】

事業所番号	3671500357
法人名	有限会社 シルバーケア
事業所名	グループホーム春日苑
所在地	徳島県板野郡松茂町広島字四番11番5 (電話) 088-699-0202

評価機関名	徳島県社会福祉協議会
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地
訪問調査日	平成 21 年 2 月 8 日

【情報提供票より】(平成 21 年 1 月 21 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 14 年 3 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤: 11人、非常勤: 5人、常勤換算: 花組 6.7人 月組 6.4人	

(2) 建物概要

建物構造	木造	
	1 階建ての	1 階 部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	24,000 円	その他の経費(月額)	光熱水費: 12,000円、その他: 実費	
敷 金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有の場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	250 円	昼食	400 円
	夕食	450 円	おやつ	100 円
	または1日当たり		— 円	

(4) 利用者の概要 (平成 21 年 1 月 21 日現在)

利用者人数	16 名	男性	0 名	女性	16 名
要介護1	6 名	要介護2	3 名		
要介護3	3 名	要介護4	2 名		
要介護5	1 名	要支援2	1 名		
年齢	平均 84.37 歳	最低	91 歳	最高	73 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	原田医院、仁木歯科医院
---------	-------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

道路を隔てたすぐ前を旧吉野川が流れ、ホームの周りは公園や畑、公共の建物などがあり、環境に恵まれている。建物は2ユニットとも木造平屋建てで居室はすべて南向きのベランダのある造りとなっている。前庭や中庭も広いスペースがあり、植え込みのしだれ桜や菜園から収穫される作物などで季節感を味わうことができる。また建材は杉や檜の自然木を使用し、随所に木材のぬくもりを感じさせてくれる。職員も苑長を中心にそれぞれの役割分担を明確にし、きめ細やかな心配りができしており、入居者の安心した生活に繋がっている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目: 外部4)
	前回評価での課題である「家族等への報告」の項目は、金銭出納に家族の確認印・サインがあり、改善されている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目: 外部4)
	自己評価は管理者・全職員で何度も話し合っ作成している。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目: 外部4, 5, 6)
	運営推進会議は2か月に1回(年間6回)開催している。参加者は利用者や家族、町職員、自治会会長、地域住民、長寿会会長、民生委員、町内同業者、職員などである。議題は利用者の状況や行事報告、健康管理、安全管理、消防訓練、評価の取り組みなどで、毎回テーマを決めて実施している。参加者からの質問や意見交換等があり、サービスの質の向上につなげている。記録もきちんと整理・保管されている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目: 外部7, 8)
	玄関に意見箱を設置している。また国保連のポスターや重要事項説明書を掲示し、苦情相談受付窓口と担当者名の明記により、家族の方々の苦情や不満をいつでも表出でき、受け付けることを示している。家族の面会時や家族会などでは職員側から話しやすい雰囲気づくりを心がけ、意見が出やすいように配慮している。苦情等が出された場合は、すぐ対応するようにしている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目: 外部3)
	地域の一員として町主催の運動会への参加や文化祭への作品の出展等している。中学生や地域のボランティアグループの美すじ会、さくらの会、さつき会の定期的な来訪などがあり、それぞれの特技等をおとして交流を深めている。日常的には散歩で出会う近所の人と挨拶を交わしたり、大根や白菜など季節の野菜をいただくなど、馴染みの関係を築いて交流を図っている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホーム独自の理念を3つ掲げ、その1つに地域密着型サービスとして地域との交流を盛り込んでいる。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は事務所と玄関、各ユニットの職員の目につく場所に掲示するとともに、毎月のミーティング時に確認し合っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の一員として町主催の運動会への参加や文化祭への作品の出展等している。中学生や地域のボランティアグループの美すじ会、さくらの会、さつき会の定期的な来訪などがあり、それぞれの特技等をとおして交流を深めている。日常的には散歩で出会う近所の人と挨拶を交わしたり、大根や白菜など季節の野菜をいただくなど、馴染みの関係を築いて交流を図っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義を理解し、職員間で何度も意見を出し合いながら具体的なケアの改善に取り組み、サービスの質の向上に活かしている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2か月に1回(年間6回)開催している。参加者は利用者や家族、町職員、自治会会長、地域住民、長寿会会長、民生委員、町内同業者、職員などである。議題は利用者の状況や行事報告、健康管理、安全管理、消防訓練、評価の取り組みなどで、毎回テーマを決めて実施している。参加者からの質問や意見交換等があり、サービスの質の向上につなげている。記録もきちんと整理・保管されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	毎月の報告や運営に関する相談、情報交換等で町の担当者と連携を図っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	行事予定や連絡事項、写真などを盛り込んだ「春日苑だより」を毎月発行し、一人ひとりの近況報告も行っている。また金銭出納もコピーして一緒に送付し、家族の確認印・サインをもらっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置している。また国保連のポスターや重要事項説明書を掲示し、苦情相談受付窓口と担当者名の明記により、家族の方々の苦情や不満をいつでも表出でき、受け付けることを示している。家族の面会時や家族会などでは職員側から話しやすい雰囲気づくりを心がけ、意見が出やすいように配慮している。苦情等が出された場合は、すぐ対応するようにしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は行っていない。やむを得ない離職等の場合はユニット毎の職員でカバーし合い、利用者へのダメージを最小限にするよう配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修は計画を立てて実施している。苑内では月1回研修会を開き、外部研修には管理者が案内文書の内容を確認して段階に応じて参加を決めたり、職員から希望を聞くなどしている。研修後は報告書を作成し、職員の回覧印も残されている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会徳島県支部に加入し、交流を図っている。また町内の同業者と相互訪問し、意見交換するなどしてサービスの質の向上を目指している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前の見学や体験利用などとおして、利用者が納得し、徐々に馴染めるようになってから入居してもらうよう支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者から人生の先輩として、防災頭巾や野菜の作り方を教わるなど共に支え合う関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	散歩や裁縫、編み物など利用者の趣味や特技などを大切にして意向や生活リズムにそった暮らし方を支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は利用者と家族、担当職員、ユニット職員で会議を開き、課題を出し合いながら本人本位に作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	サービスの実施状況は評価票を作成し、長期目標と短期目標を記入し、支援内容を箇条書きにして、毎日チェックしている。その記録をもとに、担当者会議を開き現状に即した計画となるよう見直しをしている。また利用者、家族の確認印ももらっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制をとり、協力機関との連携により利用者の安心に繋げている。また家族と連絡を取りながら通院の付き添いなどにも対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族が希望するかかりつけ医に受診できるよう支援している。家族の付き添いができない場合は相談しながら職員が対応し、利用者が適切な医療を受けられるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期における対応の指針を定めている。入居時に利用者や家族に説明し、協力医療機関との連携が得られるようになっている。また方針は関係者全員で共有できている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は日々の関わりにおいて、利用者の尊厳や誇りを傷つけないように言葉かけや態度などに配慮している。また記録などの個人情報保護についても職員間で共通認識をもち、秘密保持の徹底を図っている。また契約書にも明示されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	家事や趣味の時間は言葉かけて参加の希望を聞いたり、利用者の体調にも配慮するなどし、無理強いないように支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者はスーパーでの食材選び、皮むきや配膳準備など、できることは職員と一緒にやっている。職員は介助をしたり、話題を提供しながら和やかな雰囲気づくりを心がけ、利用者と共に食事を楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は利用者一人ひとりの希望に合わせて支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員は利用者一人ひとりの生活歴や特技を把握し、編み物や縫い物、茶道、写経、畑仕事、歌などを楽しみながら自分らしさの発揮や喜びのある日々が過ごせるように支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候のよい日にはホーム周辺の散歩に出かけたり、食材購入等で買い物に行ったりしている。また月に何度か「外出の日」を設け、外食やドライブに出かけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけないケアを実践している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の訓練を実施している。運営推進会議で災害時の連携の必要性について説明し、地域への協力依頼をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士の資格を持つ職員を中心として、利用者一人ひとりの摂取状況に応じた栄養バランスへの配慮を行っている。また水分量も記録して個別に支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関ホールにはダンボールで作った木の幹や枝があり、手作りの花で季節感を表している。訪問時は梅の花を咲かせていた。廊下や食堂などは木材を使用していて柔らかな印象があり、壁面には行事の写真や利用者の作品を掲示し、温かい共用空間づくりをしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた椅子やたんすなどの家具を持ち込んだり、鉢植えの花や家族の写真、掛け軸などを飾り、それぞれ自分らしい部屋づくりをしている。居室は全室南向きでベランダがあり、洗濯物干しや外気浴、日光浴などに活用している。		